

大糸線 意見交換会 資料

- JR西日本について
- 大糸線の取り組みについて
- 第1回振興会議で説明させていただいたこと

エリア

2府16県

お客様

約500万人/日

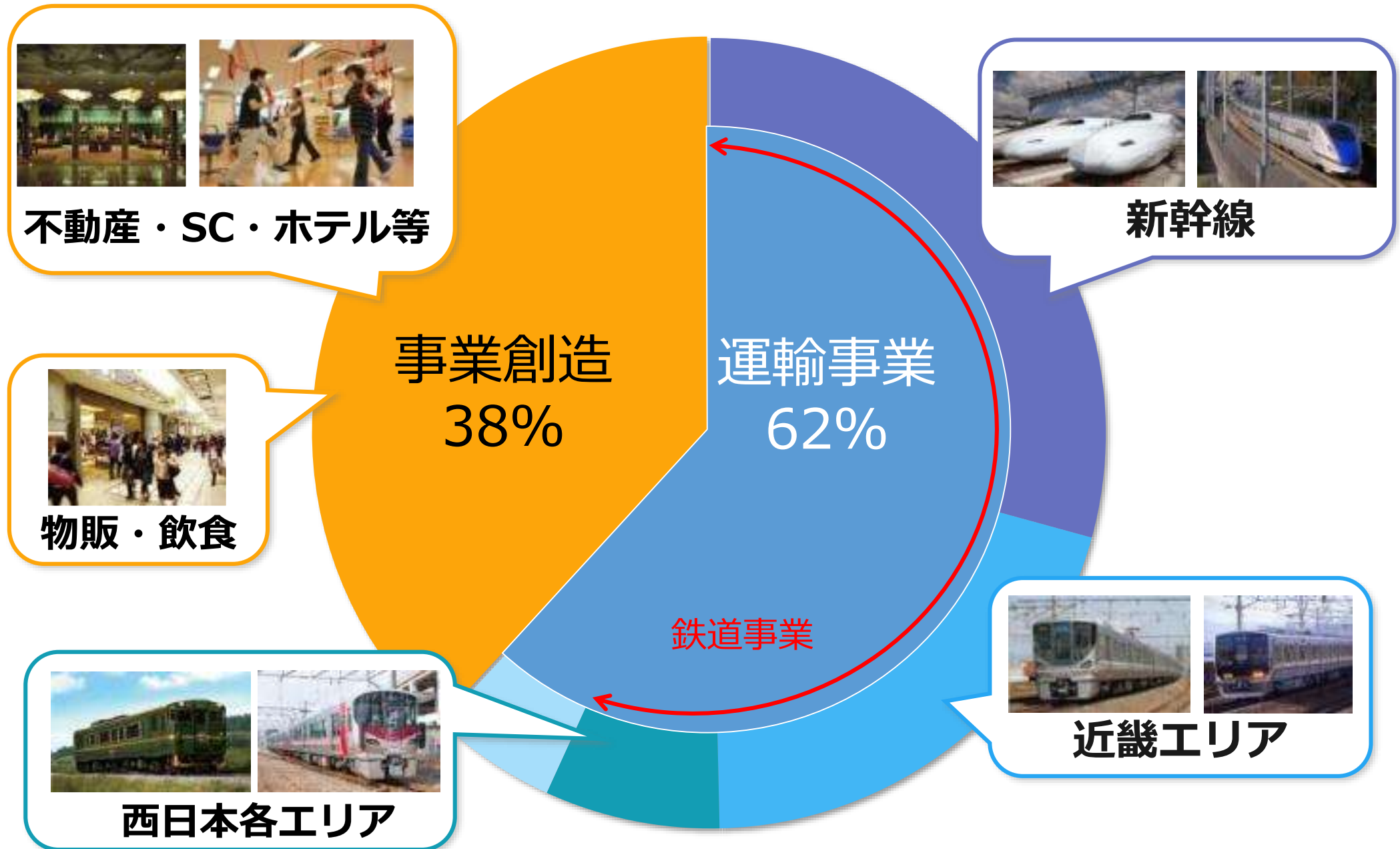
路線延長

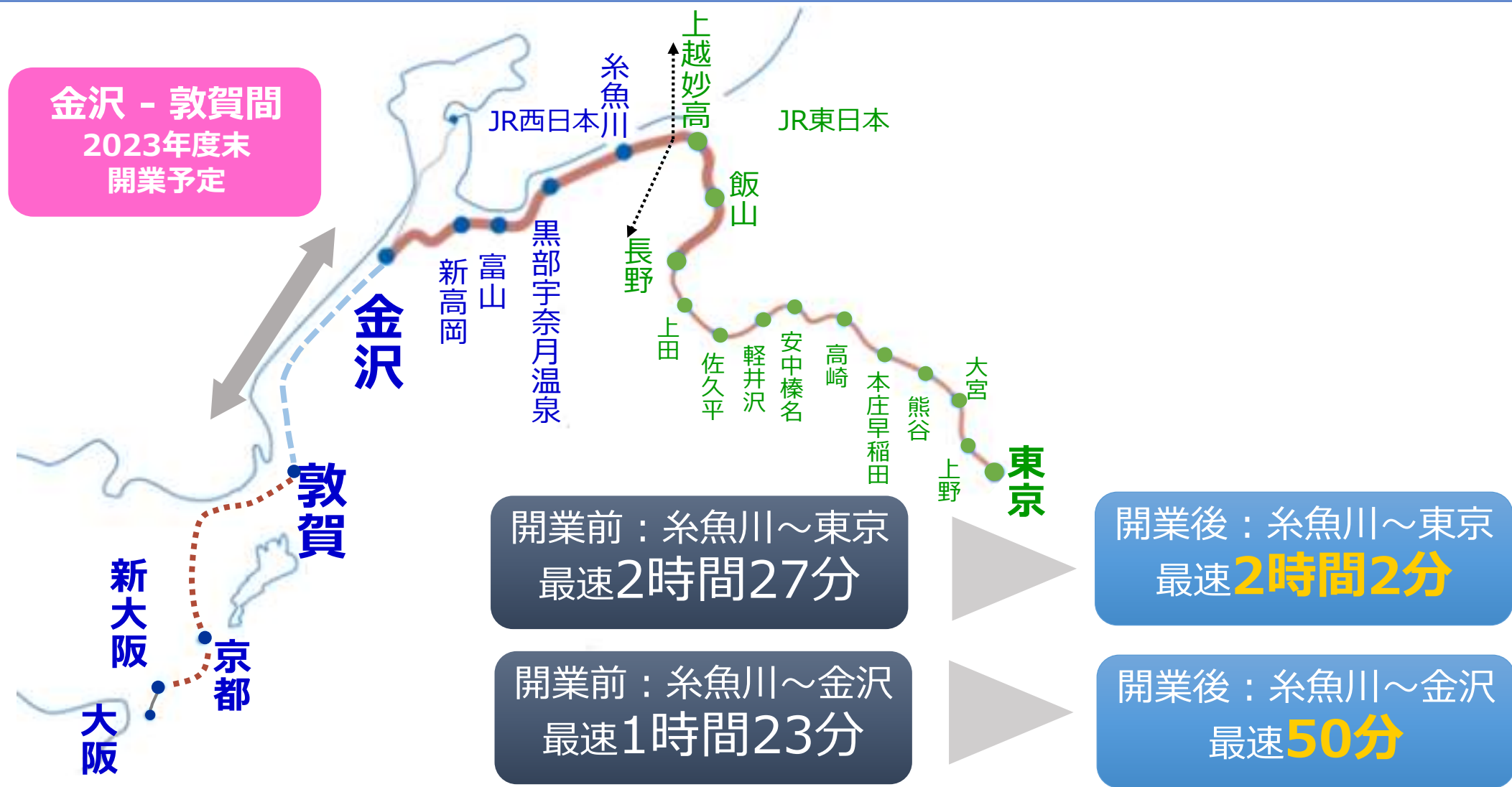
約5,000km

駅

約1,200駅







- ◆開業により北陸・首都圏間のご利用が最大3倍まで増加しました。
- ◆2023（令和5）年度末には敦賀まで延伸します。

→中国・関西圏から信越エリアへの送客に努め、さらなる大糸線沿線地域の活性化を目指します。

大糸線活性化協議会の設立

大糸線では、人口減少や車社会の進展により1992年（平成4）のピーク時からご利用が約90%減少しています（※）。これまでも利用促進・活性化に取り組んできましたが、利用者の減少に歯止めをかけるまでは至っておりませんでした。こうした状況を打破するために、大糸線の沿線関係者（新潟県・糸魚川市・長野県・小谷村・白馬村、大町市、JR東日本長野支社）と連携し、大糸線の活性化と地域振興に向けた取り組みを推進するため、2019年（平成31）2月に同協議会を設置し、各種取り組みを進めています。

※2017年（平成29）時点



令和4年度 大糸線活性化協議会 総会
〔2022年(令和4)5月24日〕



大阪駅でのPRイベント



雪月花乗り入れ



全線開通65周年イベント

これら活性化の取り組みに加え、未来に資する持続可能な路線としての方策について、地域の皆様と幅広い議論を行うために、大糸線利用促進輸送強化期成同盟会の中に振興部会を設置いただき、「大糸線沿線の活性化および持続可能な路線としての方策検討」を開始しました。

〔2022年（令和4）2月3日プレスリリース〕

2022年2月3日
西日本旅客鉄道株式会社

大糸線沿線の活性化および持続可能な路線としての方策検討の開始について

大糸線の南小谷～糸魚川駅間については、人口減少や少子高齢化に加え、道筋整備の進展等により取り巻く環境が大きく変化しており、ご利用が1992年度のピーク時から90%以上減少しております。こうした状況について共有のうえ、沿線の地方公共団体と弊社が一体となり、大糸線活性化協議会等を通じて生活利用・観光利用を軸とした大糸線および大糸線沿線地域の活性化の取り組みを重ねているところでございます。

これら活性化の取り組みに加え、未来に資する持続可能な路線としての方策について大糸線利用促進輸送強化期成同盟会内に振興部会を設置いただき、地域の皆様とともに幅広い議論を行なうこととなりましたのでお知らせします。

- 1 開始時期 2022年3月
- 2 対象区間 大糸線（南小谷～糸魚川駅間）
- 3 検討内容 地域の現状、公共交通の概況、ご利用状況、移動特性、沿線住民ニーズ等を共有し、地域の振興や未来に資する持続可能な路線としての方策について幅広い議論を行い、適宜取りまとめを実施。



※ 会議の中で「大糸線の現状（ご利用状況など）活性化の取り組み、ご利用者・沿線にお住まいの方々の移動ニーズ」について当社よりご説明させていただきました。

〔2022年（令和4）5月19日〕

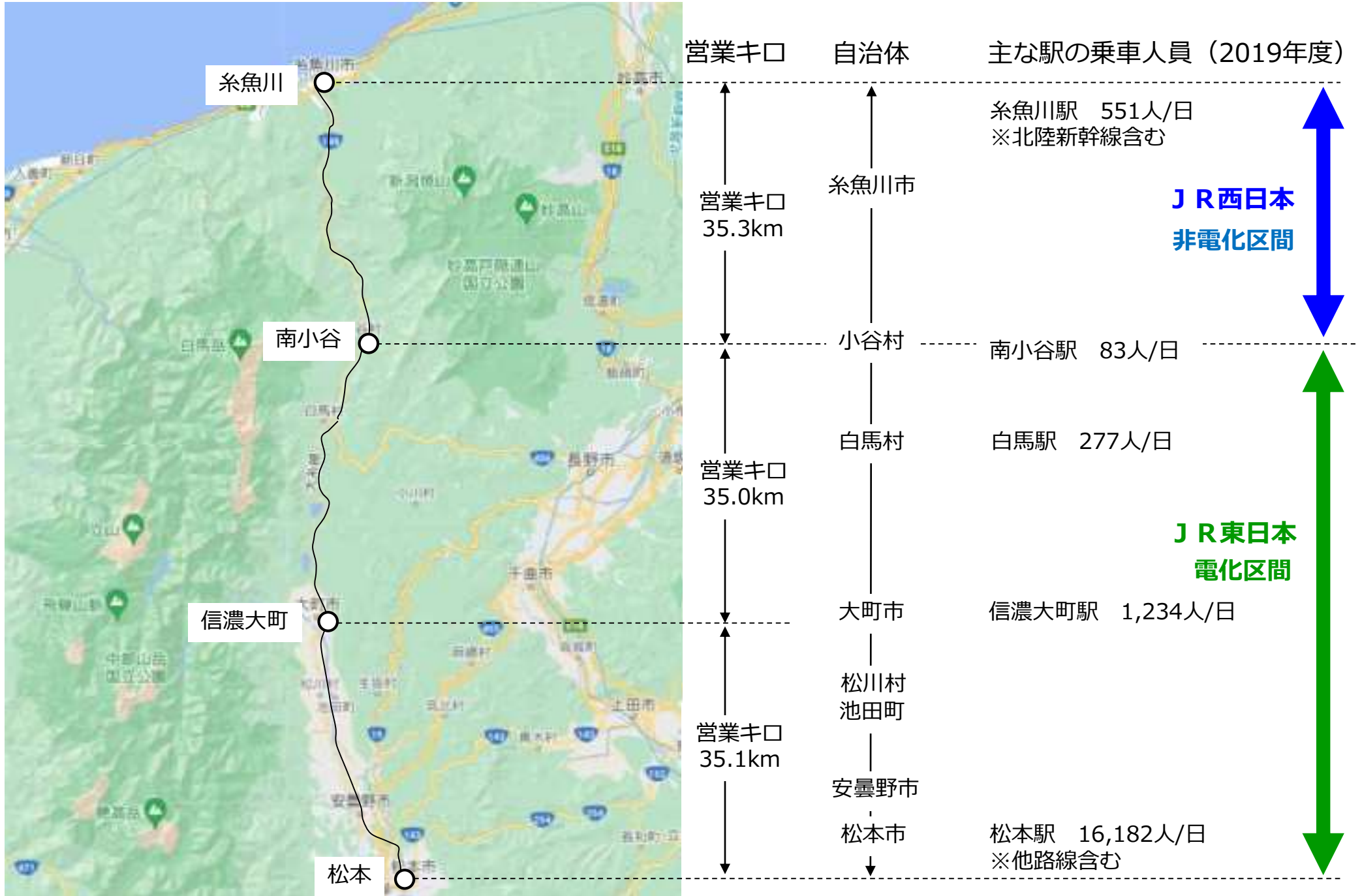
7/6 小谷村 振興会議 資料

- 大糸線の現状について（ご利用状況など）
- 活性化の取組みについて
- ご利用者・沿線にお住まいの方々の移動ニーズについて

2022年7月6日 JR西日本金沢支社

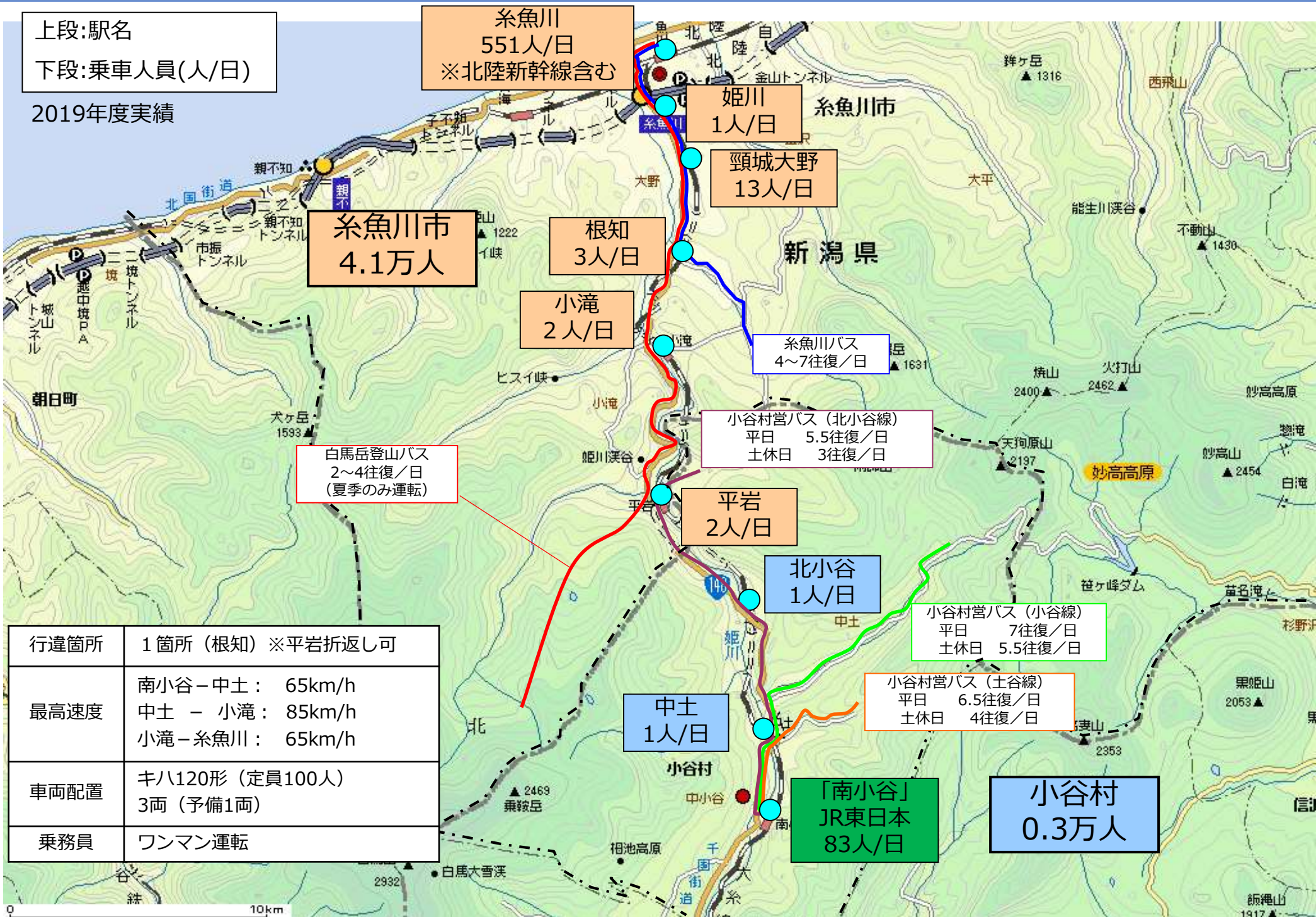
※参考 5/19 第1回 振興部会 資料

大糸線沿線の活性化および持続可能な路線としての方策検討



大糸線【南小谷～糸魚川】の概況

上段:駅名
下段:乗車人員(人/日)
2019年度実績



糸魚川
551人/日
※北陸新幹線含む

姫川
1人/日

頸城大野
13人/日

糸魚川市
4.1万人

根知
3人/日

小滝
2人/日

糸魚川バス
4～7往復/日

小谷村営バス(北小谷線)
平日 5.5往復/日
土休日 3往復/日

白馬岳登山バス
2～4往復/日
(夏季のみ運転)

平岩
2人/日

北小谷
1人/日

小谷村営バス(小谷線)
平日 7往復/日
土休日 5.5往復/日

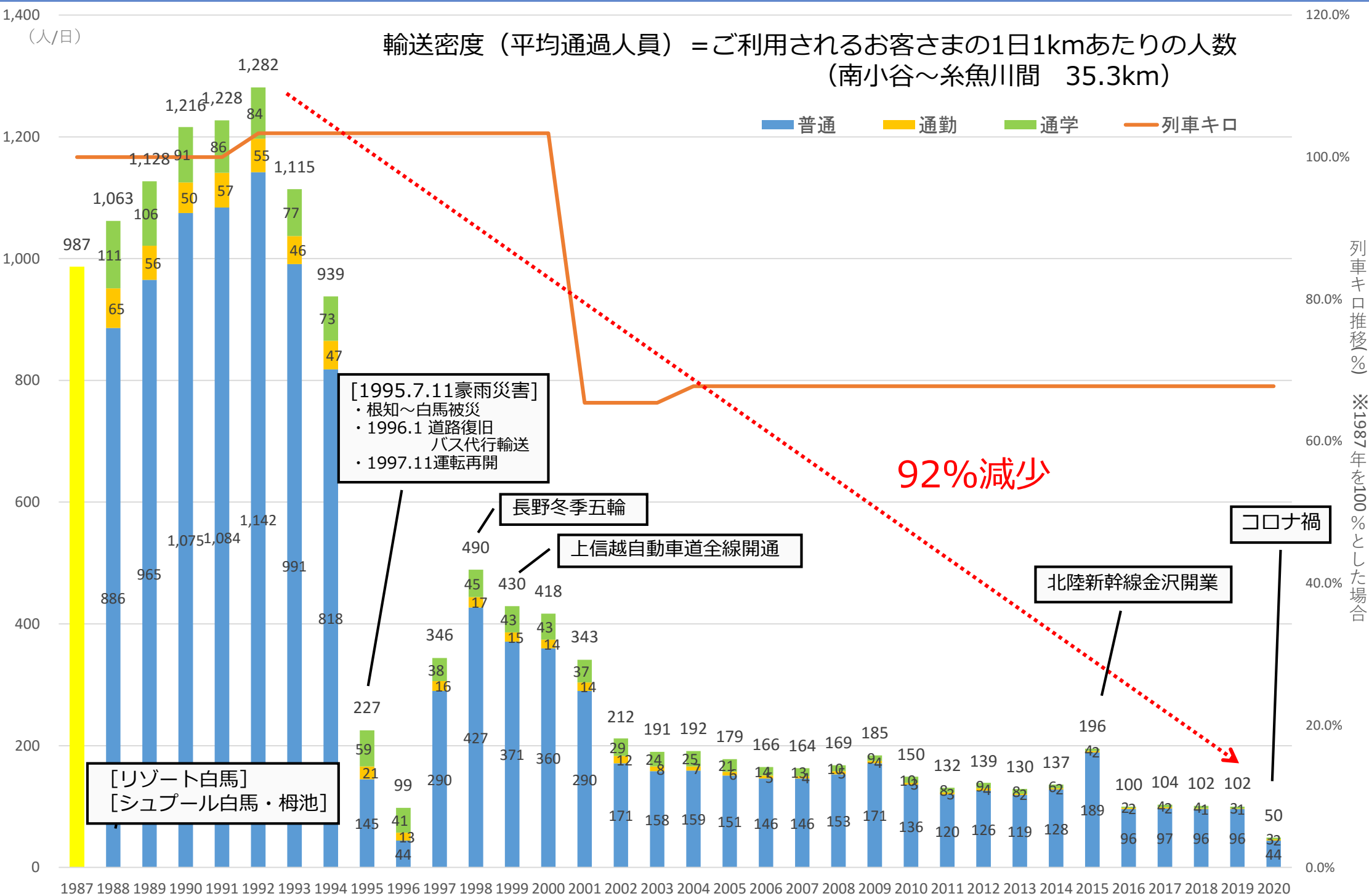
小谷村営バス(土谷線)
平日 6.5往復/日
土休日 4往復/日

中土
1人/日

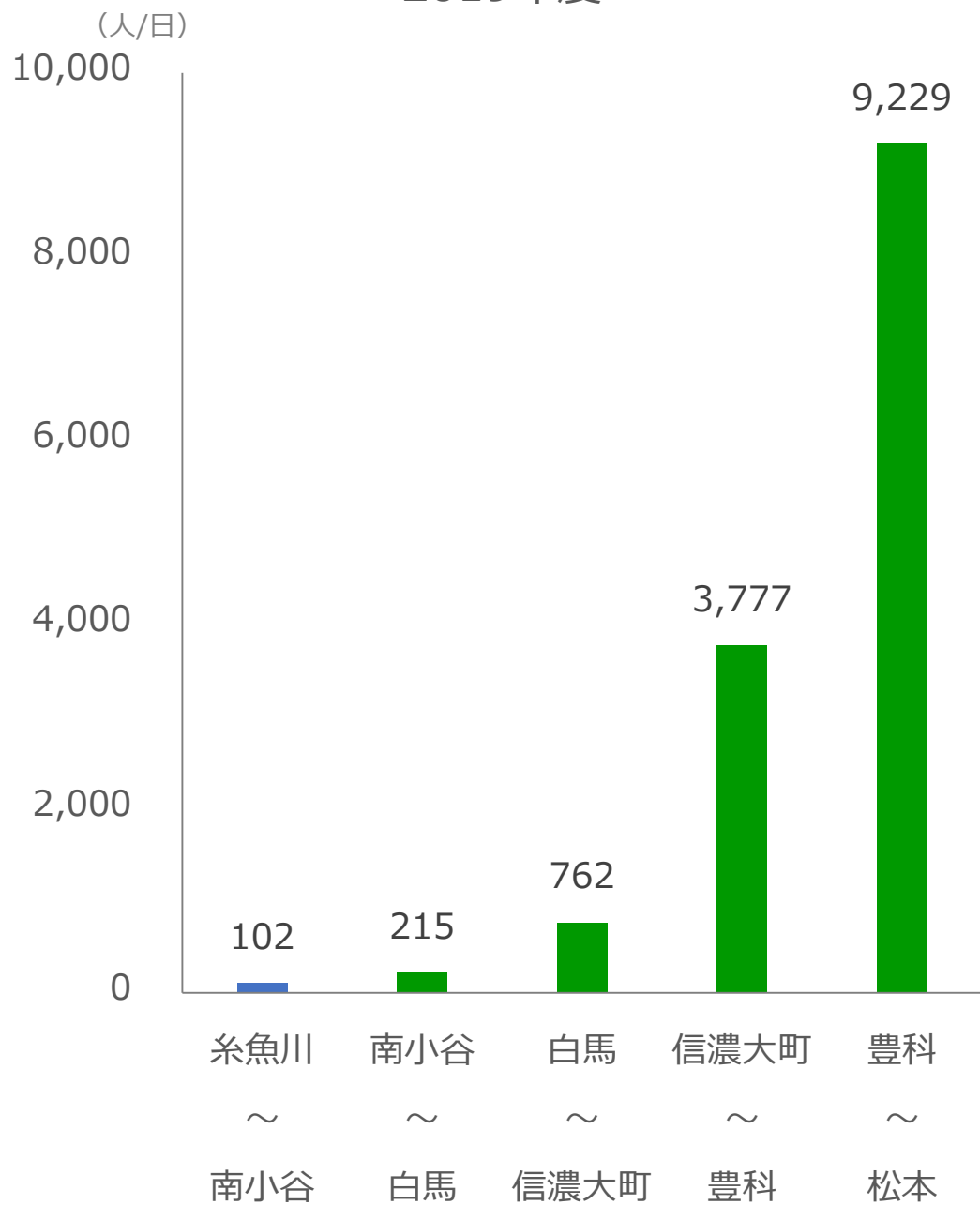
「南小谷」
JR東日本
83人/日

小谷村
0.3万人

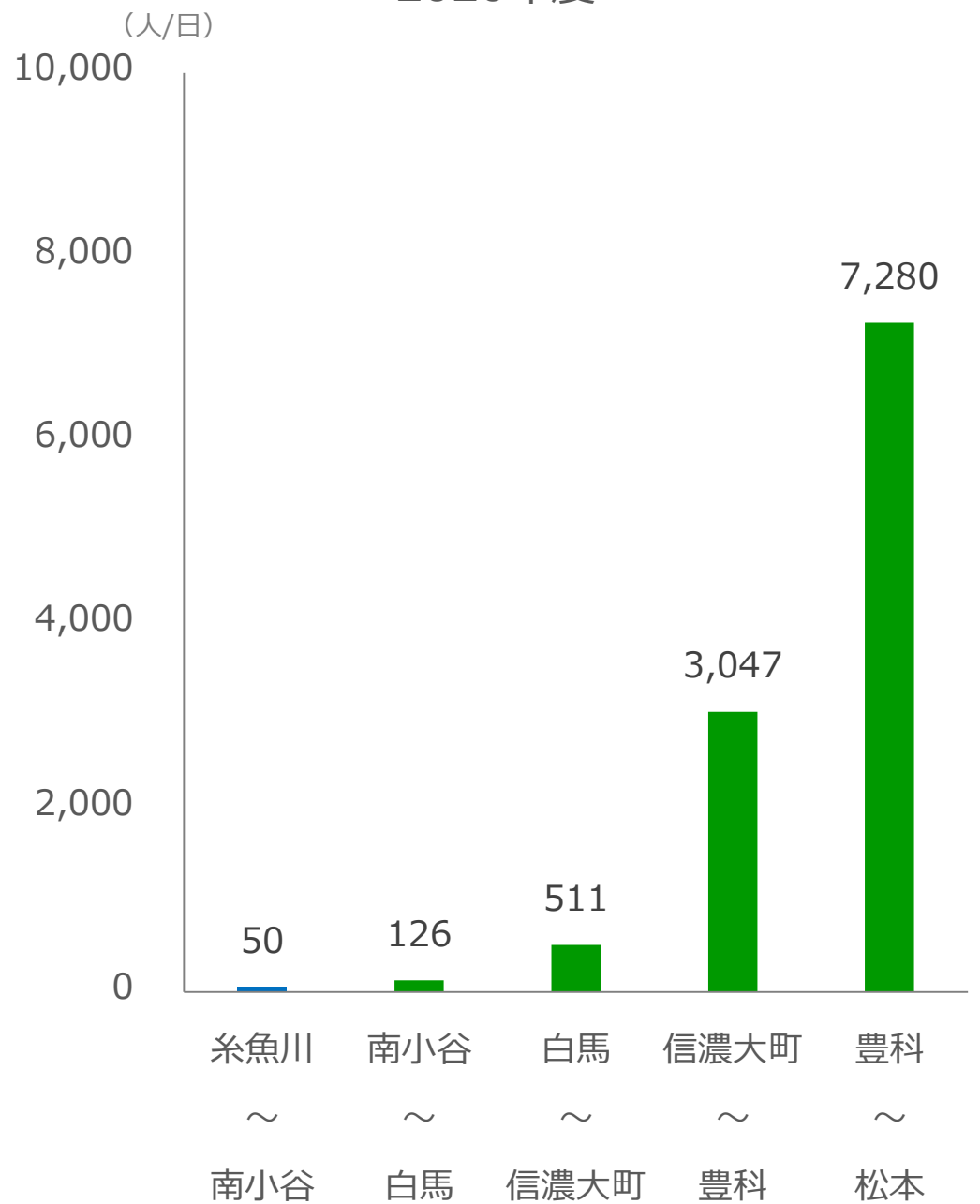
行違箇所	1箇所(根知) ※平岩折返し可
最高速度	南小谷-中土: 65km/h 中土-小滝: 85km/h 小滝-糸魚川: 65km/h
車両配置	キハ120形(定員100人) 3両(予備1両)
乗務員	ワンマン運転

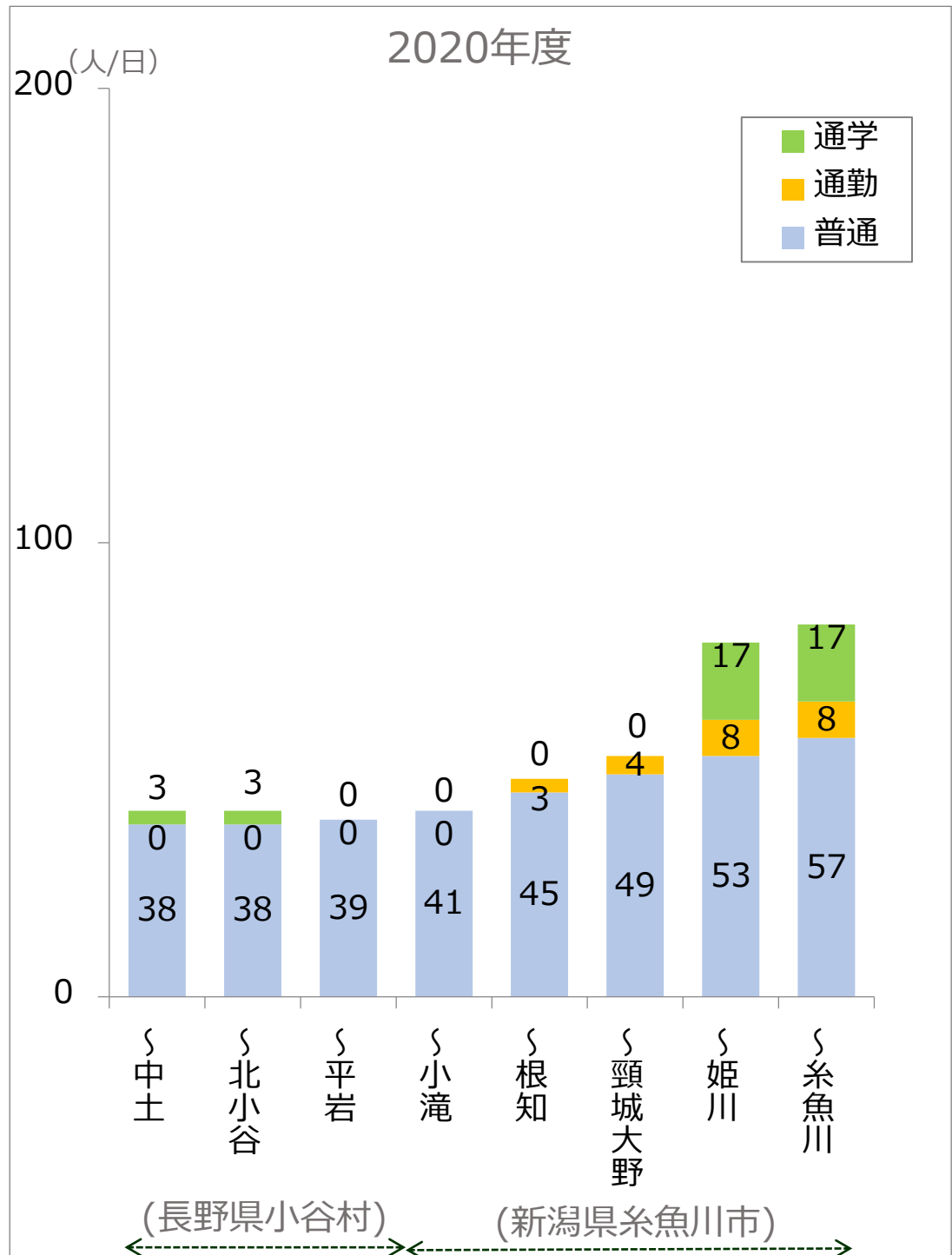
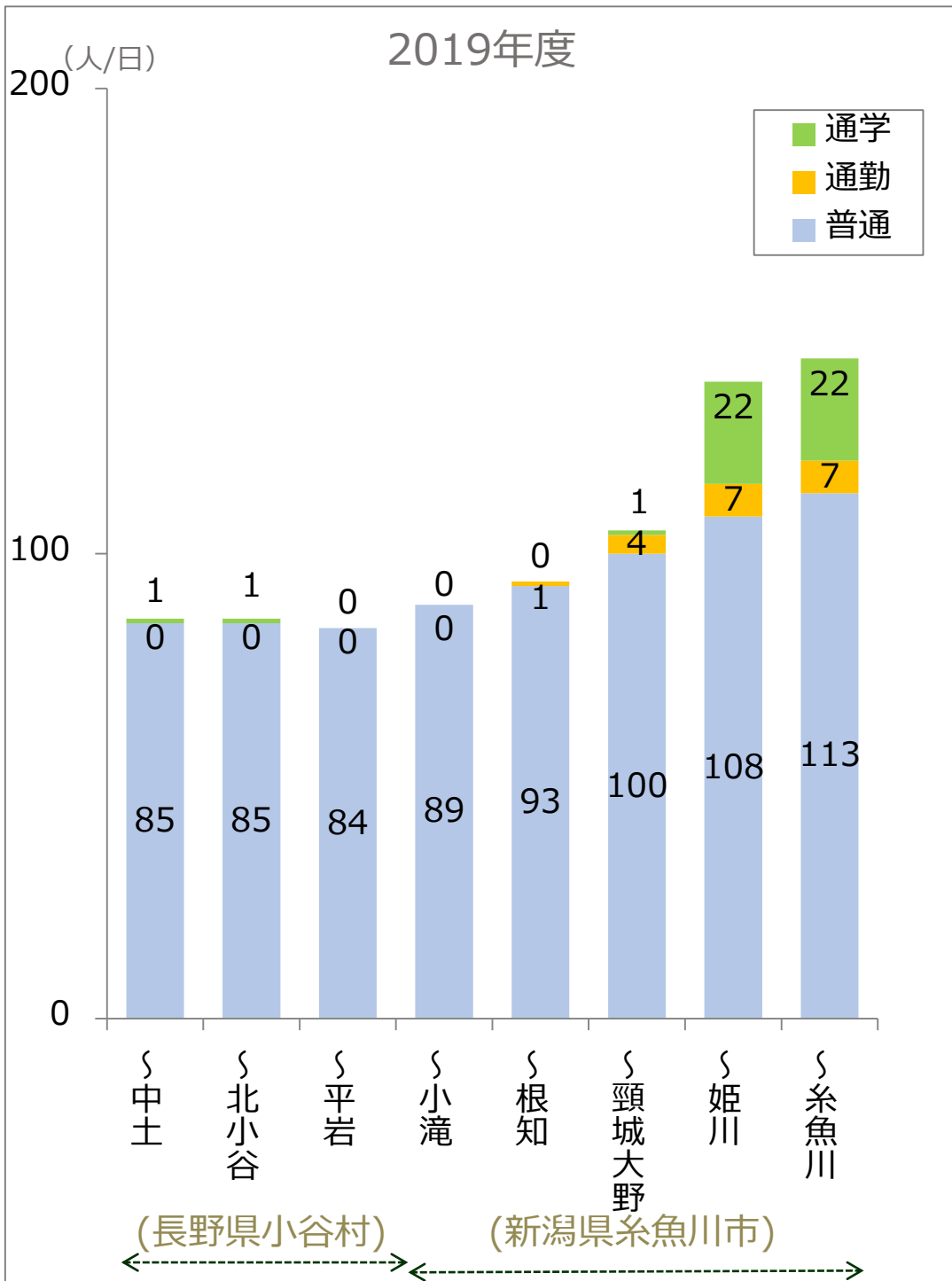


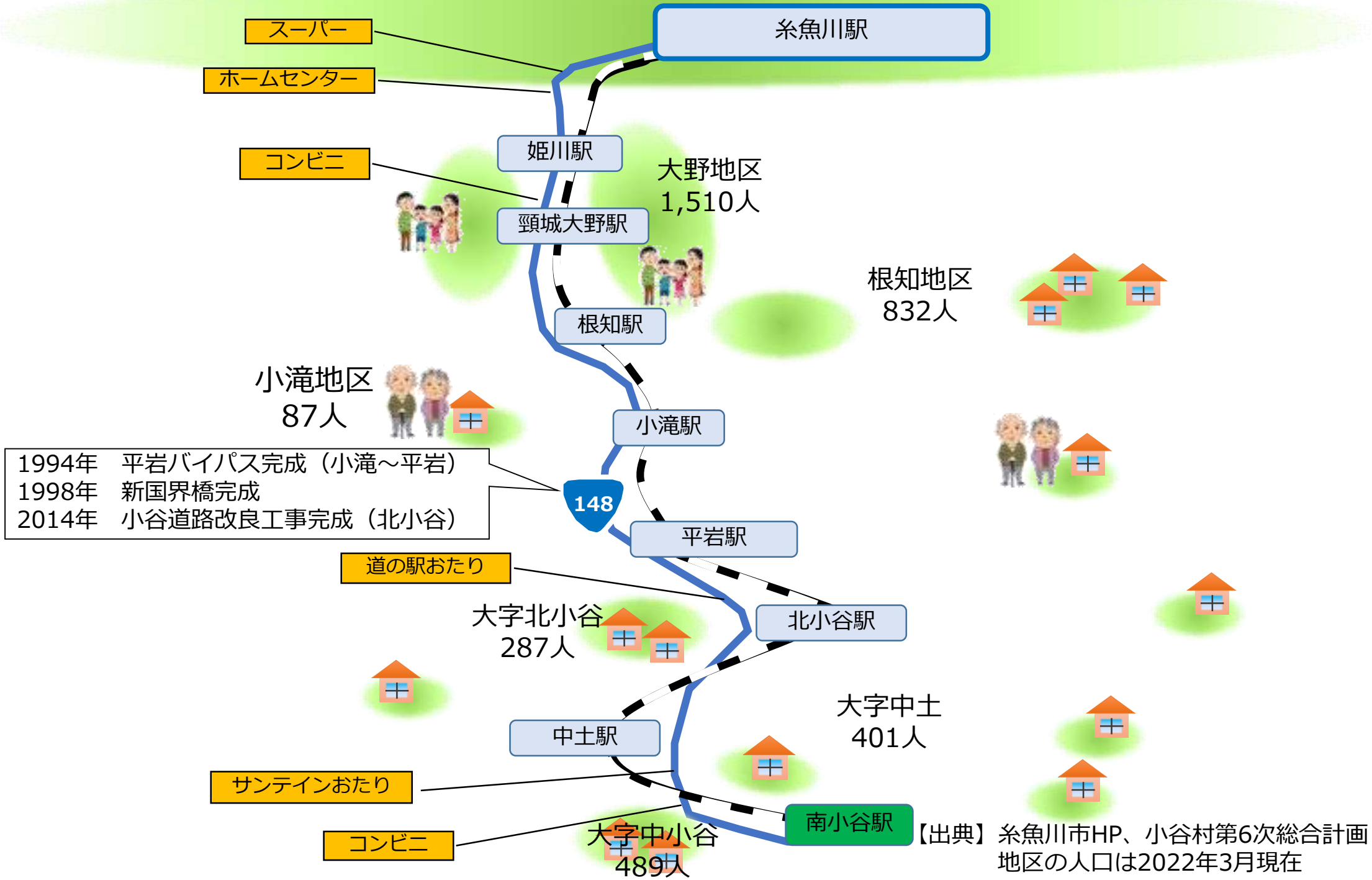
2019年度



2020年度







大糸線活性化の主な取組み

北陸新幹線金沢開業効果の最大化に向け活性化の取組みを重ねてきた
2019年2月の活性化協議会設立以降、更なる取組を加速

大糸線活性化協議会の取組み

～2017年度	2018年度	2019年度										2020年度											
15・3 北陸新幹線金沢開業	15・4 「駅プラン白馬山麓」販売開始 大糸線に手を振ろう運動① 花いっぱい運動	16・5 サイクルトレイン開始	17・11 全線開業60周年記念式典 雪月花乗り入れ	18・11 沿線観光MAP制作	19・2 大糸線活性化協議会設立	19・3 金沢駅で大糸線沿線観光PR	19・5 「糸魚川塩の道起点祭」 お出迎えなど連携	19・8 地域との意見交換会	19・10 車掌体験列車 沿線観光MAP制作	19・10 新潟DC 増便バス運行 沿線観光MAP制作	19・11 サイクルトレイン運行	19・11 糸魚川バル街トレイン運行	19・11 大糸線フォトコンテスト	19・11 大糸線無料券配布(宿泊)	19・11 イベント利用助成	20・2 大阪駅での大糸線沿線観光PR②	20・8 再現車両公開③ 乗車スタンプラリー	20・8 トワイライトエクスプレス	20・10 ハロウィン列車運行④	20・11 湯めぐり手形・MAP作成	20・11 雪月花乗り入れ運行⑤	20・12 大糸線応援隊設立	20・12 えちごトキめき鉄道観光列車

①



②



③



④



⑤



通年の取組み
情報発信の取組み
旅行商品造成

定期券補助、広報・HPなどで利用促進の情報発信、旅行商品造成支援（関西～白馬など）
「西navi」への情報掲載（毎月）、沿線パンフレット作成
グリーンリゾートキャンペーン、スノーリゾートキャンペーン（新潟県・長野県連携）など

○大糸線活性化の取組み



雪月花乗り入れ運行



湯めぐりスタンプラリー



サイクルトレイン



大糸線応援隊

○関西圏～上越・信州の交流人口増に向けた取組み



西Navi（西日本エリアで毎月36万部発行）を中心に、上越・信州を通年でPR

大糸線増便バスについて

1. 経緯

新潟県・庄内エリアdestinationキャンペーン（以下、新潟DC）に併せて2019年5月31日、大糸線活性化協議会総会において令和元年度事業として正式決定。

鉄道で増便する場合、行違い設備等の整備が必要となり高いハードルがあったため、現行の鉄道ダイヤに加えて、バスによる増便を行うことで利便性を高め、大糸線の利用促進および沿線地域の活性化に繋がる取り組みとして実施した。

2. 目的

新潟DCを契機とした交流人口の拡大および生活・観光利用の促進と大糸線沿線地域の活性化

3. 期間

2019年10月1日（火）～12月31日（火）

4. 実施主体

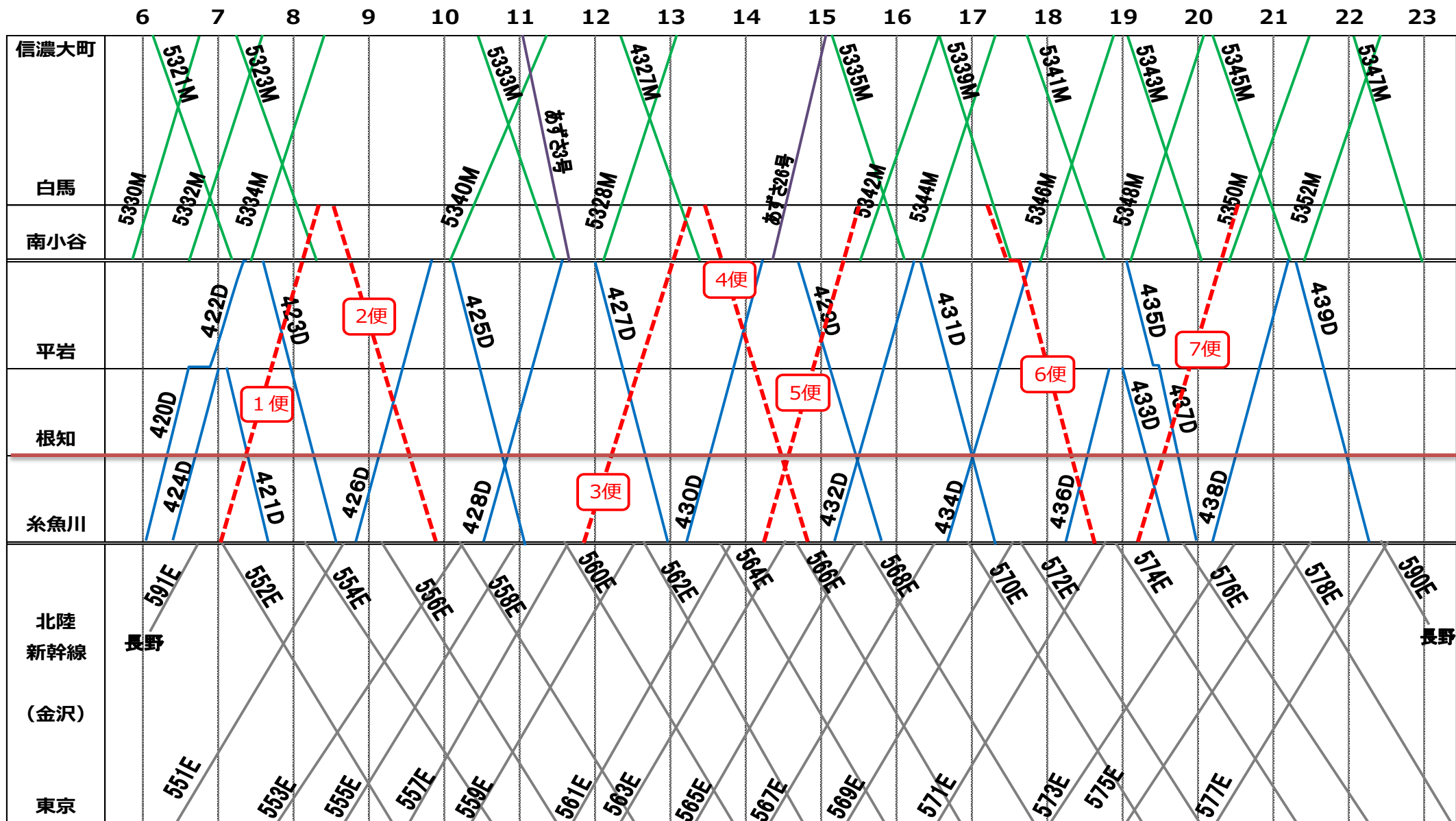
大糸線活性化協議会（会長：糸魚川市長、副会長：小谷村長、委員：白馬村、大町市、新潟県、長野県、JR西日本、オガザバー：JR東日本）

5. バス事業者

糸魚川バス(株)



- ・ 区 間 大糸線（糸魚川～白馬）45.7km
- ・ ダイヤ 鉄道ダイヤ7往復（+2往復：平岩折返し）にバス3.5往復を追加、朝夕や接続時間が長い時間帯など、お客様のご意見を踏まえ設定 ※下表参照
- ・ 停車場 糸魚川～南小谷までの各駅と白馬八方バスターミナル、白馬駅
- ・ 運 賃 鉄道と同様



1. 運行ダイヤ

運行開始当初は上下ともに3～5分程度の遅延が発生したものの、日々遅延は改善し、1カ月後にはほぼ定時で運行

2. 運行状況・運休

期間中は無事故完遂

運休2本

(10月13日1便・2便 台風19号の影響で国道148号通行止め)

〔参考〕鉄道の運休

運休56本

終日運休：10月12日、13日〔台風19号〕

一部運休：10月3日〔強風：7本〕 12月6日〔除雪：9本〕 12月12日〔強風：4本〕

3. ご利用実績

乗車人員総数 2,936人〔平均 32人/日 4.6人/便〕

日中の列車運行に間合いがある時間帯で、白馬方面との接続を補完する2,4,5便の利用が比較的多かった

期間中は無事故完遂（鉄道が運休時も増便バスは運行）

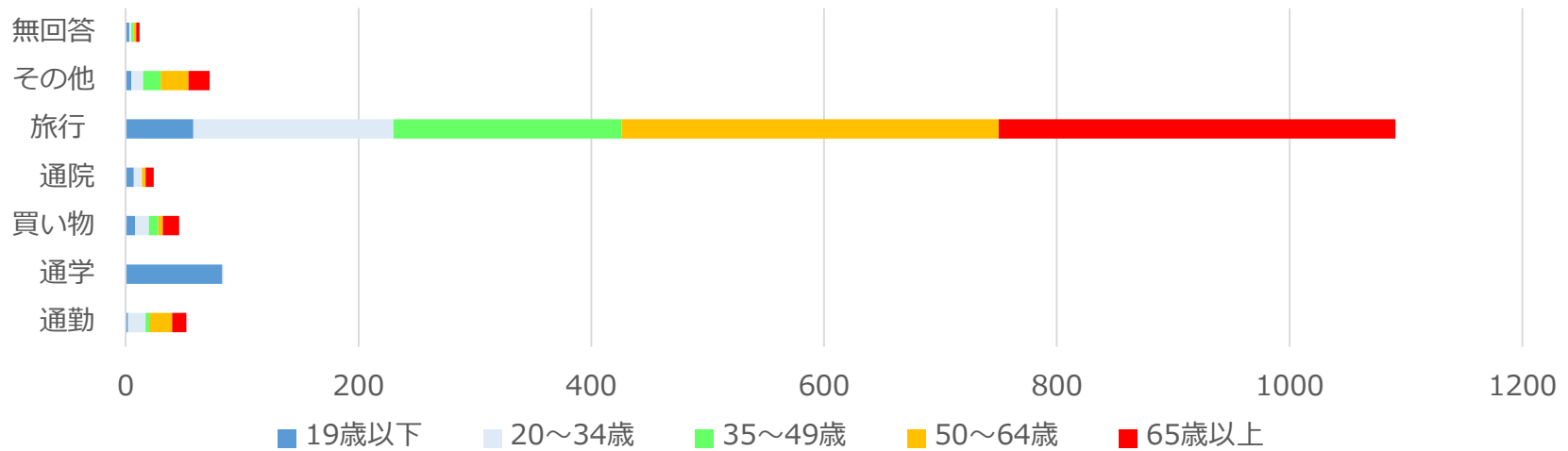
1. 調査概要

利用者の動向や増便バスの感想等の意見を集める目的で、乗込みアンケート調査を9月～12月の月毎に4日間実施

2. 実施内容

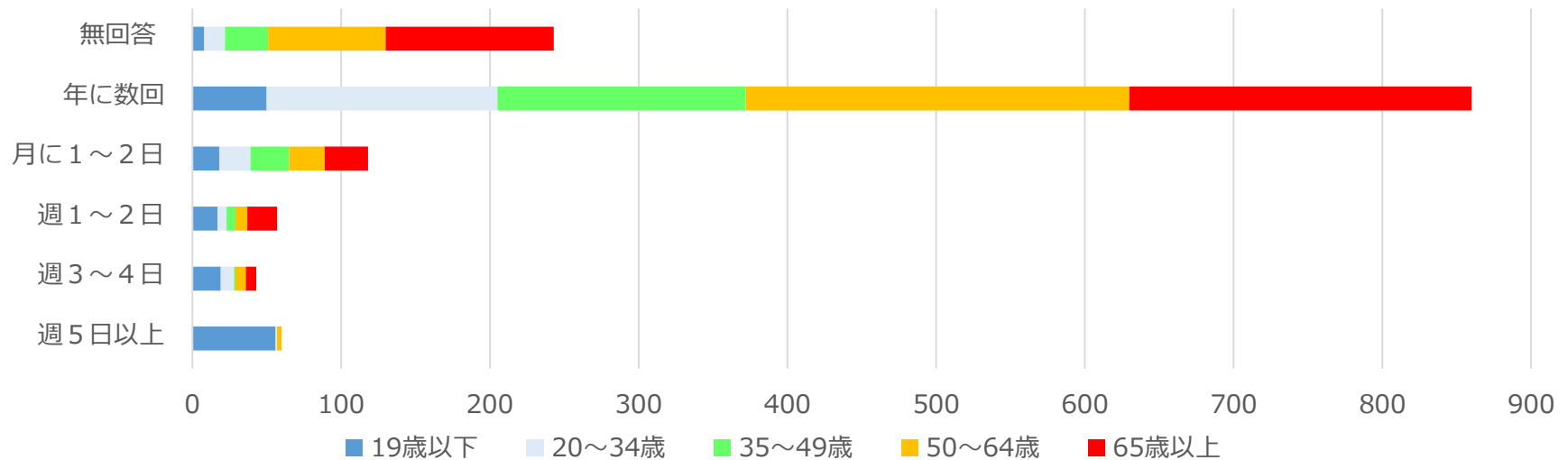
- ①調査日 2019年 9月26日（木）～ 9月29日（日） ※列車のみ実施
10月17日（木）～ 10月20日（日）
11月14日（木）～ 11月17日（日）
12月 5日（木）～ 12月 8日（日）
- ②対象列車 調査日の全列車と全バス
- ③対象者 対象列車に乗車している方全員
- ④実施方法 アンケートにより記入方式（聞き取りも実施）
- ⑤調査員 JR西日本、糸魚川市、JR西日本コミュニケーションズ

利用目的



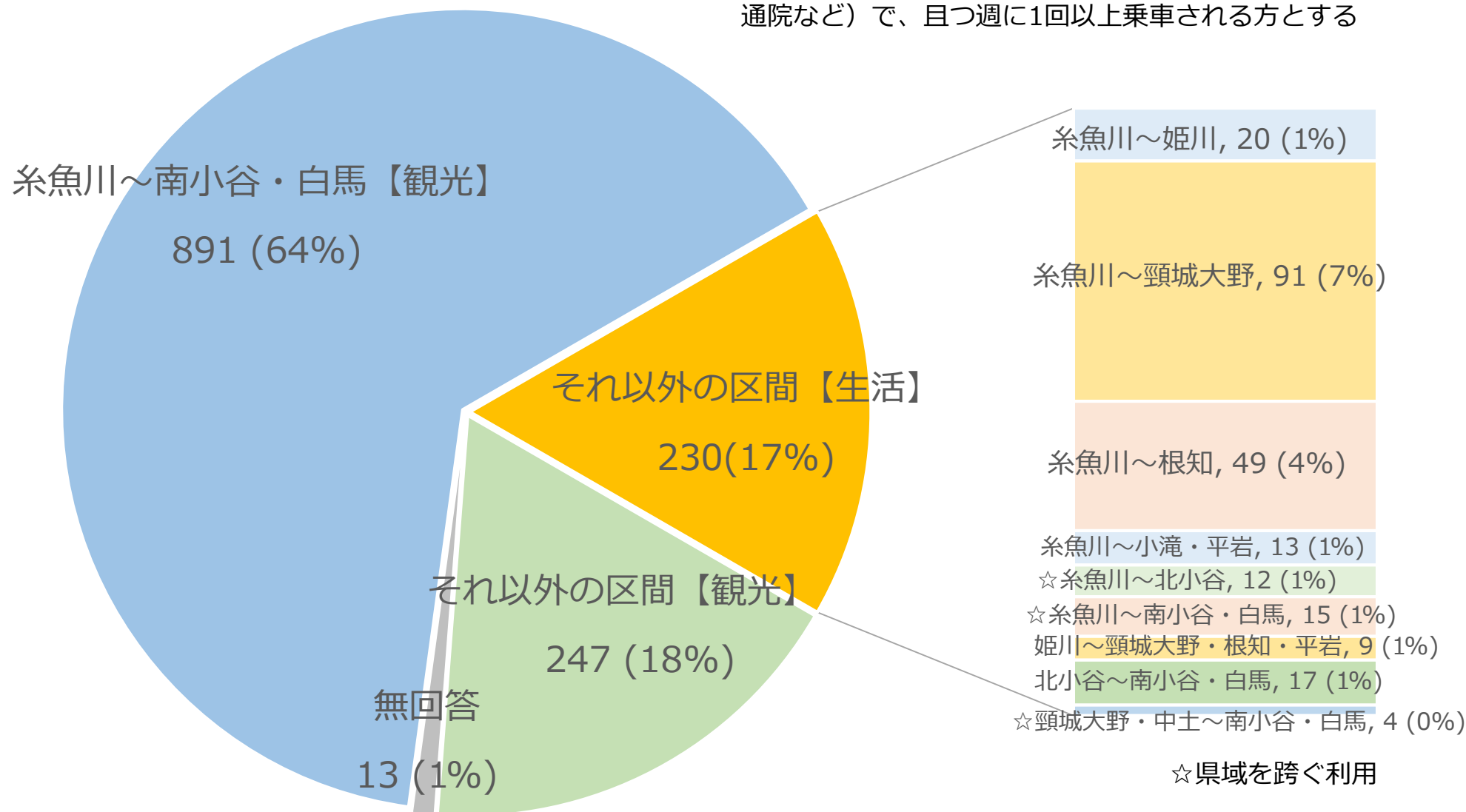
通勤・通学や通院といった生活利用者は極小であり、平日・土休日を含めて8割が旅行目的。またシニア世代の利用が目立った。

利用頻度



無回答を除くと、定期的なご利用者は約1割程度で一時的な利用が9割近くまで上った。

※生活利用者とは日常に利用される目的（通勤・通学・買い物・通院など）で、且つ週に1回以上乗車される方とする



観光利用が8割を占め、大半が糸魚川から南小谷・白馬といった拠点間移動であった。
生活利用については県域を跨ぐようなご利用は殆ど見られなかった。

沿線にお住まいの皆様へのアンケート

1. 経緯

2019年度に実施した増便バス施策や乗込調査の結果、大糸線のご利用者の8割が観光の一時的な利用であり、生活利用は2割ほどであった。

2. 目的

大糸線活性化協議会の取組みとして沿線にお住まいの皆様のニーズや移動性を確認することで、更なる生活利用者の潜在需要の掘り起こしや、市村が運営するバスやデマンドタクシーなどを含めた公共交通全体の課題解決に繋げたい。

3. 調査会社

(株) J R 西日本コミュニケーションズ

4. 調査時期

配布：2020年10月初旬 回収期限：2020年10月31日

5. 調査手法

(1) 対象

糸魚川市、小谷村在住の大糸線沿線にお住まいの皆様 ※小谷村は全戸配布

(2) 規模

3,000世帯（糸魚川市1,900、小谷村1,100） 回収1,310（回収率44%）

(3) 配布

郵送または広報配布時に世帯宛てに調査票配布、郵送により回収

沿線にお住まいの皆様への移動ニーズ（最も頻繁に出かける場所）

(n=1,232)

2020.10調査

		居住地の最寄り駅 回答数（うち大糸線）	着地（目的地）				
			糸魚川市内	小谷村内	白馬村内	大町市内	その他
発地 （居住地）	糸魚川市内発	糸魚川 321（4）	85.4%	0.6%	1.2%	0.6%	12.1%
		姫川・頸城大野 294（26）	93.9%	0.7%	0.7%	0.7%	4.1%
		根知 206（9）	94.2%	0.5%	1.0%	0.5%	3.9%
		小滝・平岩 25（5）	88.0%	4.0%	0.0%	4.0%	4.0%
	小谷村発	北小谷 61（8）	39.3%	34.4%	19.7%	4.9%	1.6%
		中土 147（10）	4.1%	19.7%	61.2%	10.2%	4.8%
南小谷 178（7）		2.2%	14.6%	72.5%	9.0%	1.7%	

糸魚川市にお住まいの方々には同市内への移動が大半を占め、小谷村にお住まいの方々には白馬村への移動が多く、北小谷が分水嶺となっている。